

## 学部教育におけるカリキュラム改革の方向性(3)

—東京都・神奈川県下の私立大学・経営学関係学科を事例として—

鈴木 そよ子

### I 研究目的と研究対象

多くの私立大学では、大学設置基準大綱化以降1990年代中頃から実施した「新カリキュラムの完成年度の時期」を迎えた。ここ数年の状況を見ると、新カリキュラムの完成年度を待って、新々カリキュラムを実施している大学もあれば、毎年少しずつ新カリキュラムを変更している大学もある。また、新カリキュラムをそのまま継続している大学もある。完成年度以降のカリキュラムへの取り組み方は、大学により異なるが、これらの次の段階への取り組みも包含して、「新カリキュラムの完成年度の時期」と捉える。

また、ある年度の同一学部・学科のカリキュラムであっても、「現行カリキュラム」が一種類とは限らない。1年次生から4年次生まで異なるカリキュラムのもとで履修している場合もある。このような場合、「現行カリキュラム」は、複数のカリキュラムを指すことになる。

このように、完成年度以降のカリキュラムは1年単位で変化しうることと、同一年度に複数のカリキュラムが存在しうることを考えて、本論文では、1998～2001年度入学者対象のカリキュラムを研究対象とする。4年間の幅のなかで、1学科のカリキュラム検討することになる。

事例研究の研究対象は、学部・学科を特定し、対象地域を限定し、その地域内の対象学科を有するすべての大学とする。この対象学科のカリキュラムを検討することにより、カリキュラム改革の一般的な方向性を把握するという方法をとる。

本論文では、経営学関係の学部・学科に特定する。さらに、1大学につき1学科を検討対象とするために、経営学関係学科の中から、「国際経営学科」を中心にと

りあげ、教育内容が「国際経営学科」に該当するか、あるいは類似する学科について、比較検討する。学部・学科の名称によって対象を決定するのではなく、学科レベルの教育内容から対象学科を選定するため、検討対象となる学部名称・学科名称は多様である。

検討対象の具体的な確定方法として、第一段階で東京都・神奈川県下のすべての私立大学を対象とした。第二段階で、各大学の学部・学科を調べて、検討対象になりうる大学43校を選択し、「大学番号」を五十音順で付し、資料収集を開始した。大学名にある番号は、この時点から一貫している。第三段階で資料収集の結果、学部・学科の教育内容を見て、検討対象を32校に絞った。以下の大学が、第二段階で対象となった大学であり、( ) を付している大学は、論文の作業を進めた2000年度時点で第三段階の対象となっていない大学である。

- |              |             |             |             |
|--------------|-------------|-------------|-------------|
| 1 青山学院大学     | 2 亜細亜大学     | 3 桜美林大学     | 4 神奈川大学     |
| 5 関東学院大学     | 6 杏林大学      | ( 7 慶応義塾大学) | ( 8 國學院大学)  |
| ( 9 国際基督教大学) | 10 国士舘大学    | 11 駒澤大学     | 12 産能大学     |
| 13 上智大学      | (14 昭和音楽大学) | 15 成蹊大学     | 16 成城大学     |
| 17 専修大学      | 18 創価大学     | 19 大東文化大学   | 20 高千穂商科大学  |
| 21 拓殖大学      | 22 多摩大学     | (23 玉川大学)   | 24 中央大学     |
| (25 帝京大学)    | 26 東海大学     | 27 東京経済大学   | (28 東京農業大学) |
| 29 東京理科大学    | 30 東海大学     | (31 二松学舎大学) | 32 日本大学     |
| (33 文教大学)    | 34 法政大学     | 35 武蔵大学     | 36 明治大学     |
| 37 明治学院大学    | (38 明星大学)   | (39 横浜商科大学) | 40 立教大学     |
| 41 立正大学      | 42 和光大学     | 43 早稲田大学    |             |

これらの大学の当該学科カリキュラムについての検討は、複数の論文に分けて行う。したがって、全体を通じた考察は、最後の論文でまとめることになる。

すでに、「学部教育におけるカリキュラム改革の方向性(1)－東京都・神奈川県下の私立大学・経営学関係学科を事例として－」(神奈川大学経営学部『国際経営論集』No.21、2001年3月)において、以下の6大学について検討した。

- |          |         |         |         |
|----------|---------|---------|---------|
| 1 青山学院大学 | 2 亜細亜大学 | 3 桜美林大学 | 4 神奈川大学 |
| 5 関東学院大学 | 6 杏林大学  |         |         |

また、「学部教育におけるカリキュラム改革の方向性(2)－東京都・神奈川県下の私立大学・経営学関係学科を事例として－」(神奈川大学教育課程研究室『神奈

川大学心理・教育研究論集』第20集、2001年3月)では、以下の8大学について検討した。

10 国士舘大学            11 駒澤大学            12 産能大学            13 上智大学

15 成蹊大学            16 成城大学            17 専修大学            18 創価大学

本論文では、先の2論文を継承する形で、以下の6大学について検討する。

19 大東文化大学        20 高千穂商科大学    21 拓殖大学            22 多摩大学

24 中央大学            26 東海大学

本研究の目的は、具体的な学部・学科のカリキュラムを検討対象としながらも、あくまで学部教育のカリキュラム改革の方向性を見出すことにある。しかも、カリキュラムの検討から導き出される「方向性」であることがポイントである。各大学のカリキュラム改革の共通点、個々の特徴点、先進的な改革点などを、学科カリキュラムレベルで明らかにする。

## II 研究方法

カリキュラムの分析方法として、各カリキュラムを以下の共通の枠組みで整理する。共通の枠組みで見ることによって、個々の特徴を明確にすると同時に、共通点を明確にする。

- A 大学番号・大学名……………五十音順の大学番号と大学名。
- B 学部・学科……………検討対象の学部名と、学部内のすべての学科名。○は検討対象学科を示す。
- C コース名……………検討対象学科のなかのコース名。「コース」という名称には、学生がコースに分かれる場合と、科目の区分や系統性を示す場合があるが、本論文では、前者を「コース」として扱う。
- D コース開始年次……………学生がコースに分かれて学習を始める年次。
- E 卒業要件単位数……………卒業するために必要な総単位数。詳細な科目区分は、必要な場合のみ記す。
- F 進級要件……………2年次から3年次に進級するために設定している修得科目に関する条件。ただし、1年次から2年次への進級条件がある大学もあるので、この場合は年次を明記する。
- G 履修科目数制限……………1年間または、半期(1セメスター)で設定してい

る履修単位数の上限、あるいは下限。

- H カリキュラム区分……………設置科目群の区分の名称。区分ごとの単位数は、必要な場合にのみ記す。
- I 必修科目……………学科カリキュラムの必修科目。ただし、カリキュラムにおいて、学科専門科目とその他の科目の区分が明確でない場合や、カリキュラムの特徴を理解する上で、必要な場合には、カリキュラム全体について記す。
- J 初期教育……………大学教育や大学生活への導入科目。カリキュラム上で初期教育科目と明示されているわけではないので、カリキュラム全体を見て判断する。
- K 専門演習……………学部教育の総まとめとしての演習につながる一連の演習科目。
- L セメスター制……………4年間を8セメスターとして、半期完結科目で構成する授業の実施状況。当該学部で「セメスター制」と称していても、通年制の授業内容を前期・後期に分けた2単位科目の設置を示している場合が多いが、これらの実施内容も含めて示す。
- M 学科カリキュラムの特色…カリキュラムのシステム上の特徴。これは、全学カリキュラムと切り離せない場合が多いが、学科カリキュラムの側から見出せる特徴をあげる。

以上の13項目に関して、各大学の資料内容の検討結果を、項目ごとに整理して記述するが、実施されていない場合や、資料から該当する内容の判断ができない場合は、その項目の記述は空白とする。また、1学部が第一部と第二部からなる場合は、第一部のカリキュラムを対象とする。

資料は、1998～2001年度までの大学案内、履修要覧、講義計画、ホームページなどである。1998～2000年度入学者のカリキュラムについては、大学案内と履修要覧等を資料としており、2001年度入学者のカリキュラムについては、大学案内を資料として用いる。また、専門演習など、3・4年次の科目内容と開講ゼミナール数などについては、該当する入学年度の上位年次生に開講されているものを資料とする。

資料の性格上、引用・出典注はすべて本文中に数字で表記する。たとえば、1-99-1-3という表記は、「大学番号-資料に付されている年度-資料番号-資料の

ページ]を示している。引用・出典が複数ページにわたる場合は、「～」と表記する。

記述の方法として、1998年度の入学者用カリキュラムを示す場合に、「1998年度カリキュラム」と称する。他の年度についても同様に扱う。また、科目名に「 」をつけ、科目区分等と区別する。

### Ⅲ 各大学におけるカリキュラム

#### A 大学番号・大学名

19 大東文化大学

#### B 学部・学科 (○が対象学科)

1999年度まで

学部名：経済学部

学科名：○経営学科 経済学科

2000年度から

学部名：経営学部

学科名：○経営学科 企業システム学科。19-01-1-1

#### C コース名

2000年度カリキュラムから 19-00-11-6

\*経営コース：経営学全般に関する知識と、企業で活かせる実践的な能力を育成し、国際的な視野の獲得を図る。

\*会計コース：会計学を中心に、経営学・法学・経済学を学び、税理士、公認会計士などの、専門資格もめざせる専門会計能力を修得。19-01-1-68

#### D コース開始年次

2000年度カリキュラム

2年次。19-00-11-8～9

2001年度カリキュラム

3年次。19-01-1-68

#### E 卒業要件単位数

124単位。19-00-11-5、19-01-1-70

#### F 進級要件

基礎教育科目の必修単位12単位を含む40単位以上。19-00-11-5

## G 履修科目数制限

各年次とも40単位。19-00-11-19

## H カリキュラム区分

基礎教育科目、専門教育科目、総合教育科目からなる。それぞれ、必修科目・選択科目・自由科目からなる。19-00-11-16～17

## I 必修科目

1年次：基礎教育科目 「経営学基礎演習」「情報処理の基礎 A」「情報処理の基礎 B」「経済学 A」「経済学 B」

専門教育科目 「経営学総論 A」「経営学総論 B」「会計学総論 A」「会計学総論 B」「簿記原理 I」「簿記原理 II」

総合科教育科目 「総合体育 I」「総合体育 II」

2年次：専門教育科目 「経営管理論 A」「経営管理論 B」 19-00-11-19～24

## J 初期教育

1年次：「経営学基礎演習」（基礎教育科目・必修科目・4単位）19-00-11-9

「本演習は、3年次・4年次で行う「専門演習」いわゆる専門ゼミの授業の形式および進め方、あるいはまた、大学生としての物の考え方や論理の組み立て方を1・2年次のうちにある程度身につけておこうというのがその主たる目的です。

したがって、履修した学生諸君には、課題となるべきテーマを与え、それに即した資料もしくはノートを作成してもらい、発表してもらうか、または、テーマに沿った書籍を輪読する形式で、資料（レジュメ）などを作成・整理し、順に発表し、その問題について討論をしていくといったことを行ってもらいます。」19-00-12-11

## K 専門演習

2000年度カリキュラムから

2年次：「経営学演習」（専門教育科目・選択科目・コース共通・4単位）

3年次：「経営学演習 I」（専門教育科目・選択科目・コース共通・4単位）

4年次：「経営学演習 II」（専門教育科目・選択科目・コース共通・4単位）

「経営学演習」では、「さまざまなテーマに沿って、レジュメを作成・発表し、みんなで討論することを通して、問題を発見し、解決する能力を身につけます。」

19-01-1-71 3年次の「経営学演習 I」では、「経営学や会計学の専門分野を決め、深く学習します。学外での調査を行ったり、資格取得を目標にした基礎づくりをするゼミもあります。」19-01-1-71 「4年次「経営学演習 II」では、「経営学演習 I」で取り組んだ内容をさらに深く追求し、専攻となるテーマを研究します。研究成果

は、卒業論文としてまとめあげるゼミもあります。」19-01-1-71

#### L セメスター制

半期科目と通年科目がある。また、半期に週2回授業を行う場合もある。19-00-11-4

#### M 学科カリキュラムの特色

1. カリキュラムは、1995年度から実施された。2000年度から経営学部が新設され、新々カリキュラムが実施されている。
2. 2000年度から2コース制が実施され、履修モデルコースが示されている。19-00-11-32～33
3. 科目名として、I・II科目、A・B科目、ABCD科目を設けて、科目の性格を次のように区別している。

I・II科目は、Iの単位を修得した後でなければIIを修得できない科目。

A・B科目は、A、Bのどちらの科目から履修しても構わない、あるいは同時に履修しても差し支えない科目。

ABCD科目は、その科目の中にサブタイトルを持つ複数の科目。アルファベットの数分の科目数を履修することができる。19-00-11-4

2001年度カリキュラムでは、I・II科目が減少し、ほとんどの科目がA・B科目になっている。

4. 総合教育科目の自由科目は、以下の7群に区分されている。

##### 2000年度カリキュラム

- A〔環境・資源・情報〕群
- B〔地域研究と異文化理解〕群
- C〔現代社会と人間〕群
- D〔現代文化と表現〕群
- E〔文化と歴史〕群
- F〔健康とスポーツAB〕群

総合教育特殊講義AB。19-00-11-24～30

##### 2001年度カリキュラムから

- A〔環境・資源・情報〕群
- B〔地域研究と異文化理解〕群
- C〔現代社会と人間〕群
- D〔現代文化と表現〕群

E〔文化と歴史〕群

F〔健康とスポーツ〕群

総合教育特殊講義。19-01-1-104

5 1年次から4年次まで、必修あるいは選択科目として演習科目を設置している。

**A 大学番号・大学名**

20 高千穂商科大学

**B 学部・学科 (○が対象学科)**

学部名：商学部

学科名：商学科 ○経営学科

**C コース名**

**D コース開始年次**

**E 卒業要件単位数**

124単位。ただし、4年次に8単位取得していない場合は、条件を満たしていないことになる。4年次8単位に含まない科目は、「課外スポーツ」、卒業認定されない教職科目、飛び級による下位科目、「ゼミⅡ・Ⅲ」、保健体育。20-99-11-65

**F 進級要件**

**G 履修科目数制限**

表のように年次ごとの履修上限単位数と履修加減単位数が設定されている。

区 分	1年	2年	3年	4年
履修上限単位数	46	46	46	46
履修下限単位数	34	36	20	8

20-00-11-14

**H カリキュラム区分**

中心科目群 (必修科目・1年次)、学部共通基礎科目群(選択科目・1～2年次)、経営学科基礎科目群 (選択科目・2～3年次)、応用科目群 (選択科目・3～4年次)、関連科目群 (選択科目・3～4年次)、EC群(選択科目)、外国語群 (選択科目)、健康とスポーツ群(選択科目)、ゼミ群 (選択科目)、海外留学、教職科目群からなる。

20-00-11-64

**I 必修科目**

中心科目群

1年次：A群「文化と歴史」「人間と社会」「自然と環境」(各4単位)

B群「経済の世界」「生活と流通」「企業と社会」(各4単位)

C群「基礎コンピュータ」「ECIA」「ECIB」(各2単位)

「ゼミI」(4単位) 20-00-11-63

## J 初期教育

1年次：「ゼミI」(中心科目群・必修科目・4単位) 20-98-1-14

担当教員ごとにゼミナールのテーマを示し、学生はいずれかのテーマのゼミナールを選択する。履修者数に制限があるため、予備登録をしたうえで、履修する。20-99-11-77「ゼミI」のテーマと担当教員およびゼミ概要の紹介がある。20-98-1-21～23 これから判断する限り、旧一般教育をはじめとする多様な分野の教員が担当している。

2年次以降のゼミナールとの関係を見ると、履修の上では、「ゼミI」の単位を取得することが、「ゼミII」又は「ゼミIII・IV」を履修する前提条件となっている。20-00-11-67

また、内容的な面で、2年次以降のゼミとの関係をみると、「1年次のゼミI.は必修で、ゼミ教育の入門的役割を果たします。それは2年次からのゼミII. (選択)と3年次からのゼミIII.・ゼミIV. (選択)へと継続し、一般の講義では得ることのできない、学究への深い満足感を得ることができるシステムとなっています。」20-98-1-21と説明されている。1998年度の大学案内では36ゼミ、2000年度の大学案内では34ゼミの内容が紹介されている。20-98-1-21～23、20-00-1-21～23

担当教員ごとに自然科学、社会科学、人文科学、スポーツの広がりの中からテーマを選択している。

## K 専門演習

2年次：「ゼミII」(ゼミ群・選択科目)

3年次：「ゼミIII」(ゼミ群・選択科目)

4年次：「ゼミIV」(ゼミ群・選択科目)

「ゼミナールは大学の勉学の真髄といわれています。本学はゼミナール教育を重視し、1年次から4年次まで、さまざまな形のゼミナールを開講しています。しかも、商学・経営・会計・経済・法学などの幅広い分野にわたって100近い多種多様な科目が要されています。」20-00-1-21 ゼミを重視する大学の姿勢が窺われる。

「ゼミII・III・IV」を履修した結果としての修得単位数は、その継続期間によって異なる。「ゼミII・III・IV」が、同一教員の場合は、12単位。「ゼミIII・IV」が同

一教員の場合は、8単位。いずれもゼミ卒業論文提出は必須となっている。ゼミ論文の提出要領も統一されたものがあり、『履修要項』に掲載されている。20-99-11-81

また、履修継続に関しても、学生の履修態度が問われる。「年度の途中において、ゼミ担当教員より「ゼミ除籍」と判断され通知された場合は、当該年度のゼミ履修および過年度の同一ゼミの履修を削除し、翌年度の同一教員のゼミ履修は認めない。」20-99-11-79、20-00-11-79

「ゼミⅡ・Ⅲ・Ⅳ」のテーマと担当教員、概要についての紹介がある。商学群・会計学群・経済学群・法学群・総合群の区分に分かれている。募集年次は、ゼミごとに異なっており、「2年次」「2～4年次」「3・4年次」等、明記されている。20-98-1-24～28

2000年度の経営学科開講ゼミ数は、2年次開講2ゼミ、2～4年次生開講12ゼミ、2・3年次開講7ゼミ、3・4年次開講3ゼミ、4年次開講6ゼミ、計30ゼミ。経営・情報・法律にかかわる分野のテーマで開講されており、テーマから判断すると、専門分野の教員が担当している。20-00-1-24～25

#### L セメスター制

#### M 学科カリキュラムの特色

1. 専門教育科目は、経営分野・会計分野・情報分野が、「3つのゆるい分野」として設けられている。20-99-1、20-00-1
2. 1年次必修の「ゼミⅠ」は、担当教員の専門に関わる研究テーマが提示されている。2・3年次のゼミも、ゼミナールについての新しい発想を得られる。
3. 学部内科目の「飛び級」履修制度を実施している。大学で指定している資格の取得者は、希望すれば上位年次配当の科目を履修でき、その科目の単位取得を条件として、下位科目（飛び級希望の科目）の単位を認定する。20-00-11-70～76

---

#### A 大学番号・大学名

21 拓殖大学

#### B 学部・学科（○が対象学科）

学部名：商学部

学科名：○経営学科 貿易学科

### C コース名

- \* 経営コース：「経営のジェネラリストをめざすコースで、ビジネス全般で活躍できるようにカリキュラムが組まれています。」
- \* 会計コース：「会計専門家、すなわち公認会計士や税理士の養成をめざすコースで、日商の簿記検定合格を全面的にバックアップしたカリキュラムが特徴的です。」
- \* 経営情報コース：「コンピュータを自由自在に扱える、ビジネスに精通した人材を養成することをめざしています。」
- \* 流通コース：「特に流通・販売に強い人材を育成するためのコースで、そのための知識を徹底的にたたき込みます。」 21-00-1-24

### D コース開始年次

2年次。21-00-11-16

### E 卒業要件単位数

126単位。21-00-11-17

### F 進級要件

共通科目	・ 教養科目	20単位以上 (人文・社会科学系列、自然科学系列、総合科目系列)
	・ 保健体育科目	2単位以上 (「生涯スポーツ基礎演習」)
外国語科目	・ 英語	4単位以上 (1年次配当科目)
	・ 第2外国語	4単位以上 (1年次配当科目)

専門科目	}	20単位以上 (「電子計算機論」は必ず修得)
ゼミナール科目		
自由科目		

50単位以上

21-00-11-18

### G 履修科目数制限

1～3年次54単位以下、4年次8単位以上。21-00-11-21

### H カリキュラム区分

共通科目、外国語科目、専門科目、ゼミナール、自由科目からなる。

共通科目は、教養科目(人文・社会科学 A・B 群、人文・社会科学 C 群、自然科学、総合科学)からなる。

外国語科目は、英語、第2外国語からなる。

専門科目は、学部基礎科目、コース基本科目、関連科目からなる。

自由科目は、副専攻を選択した場合の単位も含む。21-00-11-17

## I 必修科目

### 専門科目

経営コース、会計コース、経営情報コース、流通コースのコースごとに、「学部基礎科目」「コース基本科目」「ゼミナール」から必修科目を設定している。

### 経営コース

1年次：学部基礎科目 「電子計算機論」「簿記原理」

2年次：学部基礎科目 「会計学総論」「経営学総論」

3年次：コース基本科目 「経営管理総論」

### 会計コース

1年次：学部基礎科目 「電子計算機論」「簿記原理」

2年次：学部基礎科目 「会計学総論」

コース基本科目 「原価計算論」「上級簿記論」

3年次：コース基本科目 「財務会計論」「会計監査論」「管理会計論」

### 経営情報コース

1年次：学部基礎科目 「電子計算機論」「簿記原理」

2年次：コース基本科目 「情報基礎論」「プログラム演習(I)」

3年次：コース基本科目 「経営情報管理論」「システム設計論」

### 流通コース

1年次：学部基礎科目 「電子計算機論」「簿記原理」「流通総論」

2年次：学部基礎科目 「会計学総論」

コース基本科目 「マーケティング」

3年次：コース基本科目 「流通産業論」 21-00-11-26～29

## J 初期教育

1年次：「1年基礎ゼミナール」(ゼミナール・選択科目)

「幅広い視野、論理的思考、学習意欲の向上など、大学での「学問の学び方」「研究の方法」が少人数で学べる。」 21-99-1-9

2000年度の「1年基礎ゼミナール」は、2コマ開講されている。テーマはそれぞれ「なぜモノが売れるのかを考える」「コミュニケーションについて考える」 21-00-12-585～586であり、経営学の基礎となると同時に、大学教育の導入となるように授業の進め方も工夫されている。

## K 専門演習

2年次：「プロゼミナール」(ゼミナール・選択科目)

3年次：「3年ゼミナール」(ゼミナール・選択科目)

4年次：「4年ゼミナール ゼミナール論文」(ゼミナール・選択科目)

21-00-11-26～29

「プロゼミナール」は、「1年基礎ゼミナール」をさらに発展させたい学生や、3年次からのゼミナールより前に専門分野の研究をしたい学生のために設けられている。21-99-1-9

2000年度は6ゼミナールが開講されている。テーマは「日本の企業入門・日経ビジネス編」「ヘミングウェイ研究」「現代マーケティングの課題」「東アジア国際関係論入門」「チャイニーズネットワークの研究」「経営学入門」。21-00-11-587～592

ゼミナールは、3・4年次連続で行われるものが多いが、3年次もしくは4年次に単独のテーマを設定することもある。政経学部のゼミナールを履修することもできる。2001年度の大学案内で紹介されている、両学科に共通しているゼミナールは、会計9ゼミ、経営6ゼミ、法律3ゼミ、経営情報5ゼミ、流通2ゼミ、国際ビジネス4ゼミ、国際コミュニケーション2ゼミ、共通教養6ゼミ、語学6ゼミ、教職3ゼミ。21-01-1-23

## L セメスター制

## M 学科カリキュラムの特色

1. 1999～2001年度のカリキュラムは基本的に変化なし。ただし、3年次必修だった「ゼミナール」が2000年度から選択科目となる。21-99-1-9、21-00-1-25、21-01-1-19
2. 副専攻を選択できる。副専攻には教職副専攻、外国語副専攻があり、このどちらかを選択して登録する。3年次の履修科目届提出の際に届け出て、卒業まで継続する。21-00-11-17
3. 自由科目は、教養科目、保健体育科目、ゼミナールの指定単位超過取得分及び他学部・学科・コース科目、選択外国語、教職科目、社会教育主事科目、日本語教員科目の取得単位を、卒業要件単位として認定するものである。21-00-11-17  
これによって、多様なゼミナールのなかからの複数の履修や、学生の学びたい分野の集中的な学習を、卒業要件単位の中で有効に活かすことができる。
4. 副専攻を選択した場合、自由科目区分が副専攻区分に変わり、指定された科目以外の単位は認定されない。全体の単位数構成の面でも変化があり、専門科目の

関連科目が4単位減少し、自由科目が4単位増加する。21-00-11-17

~~~~~

**A 大学番号・大学名**

22 多摩大学

**B 学部・学科 (○が対象学科)**

学部名：経営情報学部

学科名：○経営情報学科

**C コース名**

春学期入学生 \*一般春コース

秋学期入学生 \*一般秋コース

\*グローバル・マネジメント・コース (GMC) 22-00-11-6

GMC 選択の資格条件は、TOEFL420点以上、TOEIC450点以上、

IELTS4.5以上のいずれかの語学力を有している者。22-00-11-30

**D コース開始年次**

入学時。22-00-11-30

**E 卒業要件単位数**

132単位。22-99-1-12

**F 進級要件**

1年次から2年次への進級要件。必修・選択を問わず20単位以上修得すること。

2年次から3年次への進級要件。基礎教育科目の必修単位20単位を含め、55単位以上を修得すること。22-00-11-30

**G 履修科目数制限**

**H カリキュラム区分**

基礎教育科目と専門教育科目からなる。

基礎教育科目は、A 企業活動と社会環境、B 情報技術と企業経営、C 問題の分析と解決、D 自己表現と他者の理解、E 外国語、G 基礎学習からなる。

専門教育科目は、A 企業活動と社会環境、B 情報技術と企業経営、C 問題の分析と解決、F 創出からなる。22-00-11-7

一般春コース、一般秋コースの場合、必修・選択必修科目からなる。グローバル・マネジメント・コースのみさらに選択科目が加わる。22-00-11-10~26

## I 必修科目

一般春コース：**基礎教育科目** 外国語（「英語Ⅰ・Ⅱ」または「中国語Ⅰ・Ⅱ」のどちらか4単位）、基礎学習（「経営基礎Ⅰ・Ⅱ」「情報基礎Ⅰ」16単位）

**専門教育科目** 創出（「演習Ⅴ」または「卒業課題制作」のどちらか2単位）22-00-11-15

一般秋コース：**基礎教育科目** 外国語（「英語Ⅰ・Ⅱ」または「中国語Ⅰ・Ⅱ」のどちらか4単位）、基礎学習（「経営基礎Ⅰ・Ⅱ」「情報基礎Ⅰ」16単位）

**専門教育科目** 創出（「演習Ⅴ」または「卒業課題制作」のどちらか2単位）22-00-11-20

グローバル・マネジメント・コース：

**基礎教育科目** 自己表現と他者の理解（4単位）、外国語（英語または中国語のどちらか8単位）、基礎学習（「経営基礎Ⅰ・Ⅱ」「情報基礎Ⅰ」16単位）

**専門教育科目** 企業活動と社会環境（8単位）、創出（12単位）22-00-11-25

## J 初期教育

## K 専門演習

専門演習の科目および配当期は、コースによって異なる。

一般春コース

2年次春：「基礎演習」（創出・選択必修科目）

2年次秋：「演習Ⅰ」（創出・選択必修科目）

3年次春：「演習Ⅱ」（創出・選択必修科目）

3年次秋：「演習Ⅲ」（創出・選択必修科目）

4年次春：「演習Ⅳ」（創出・選択必修科目）

4年次秋：「演習Ⅴ」「卒業課題制作」（創出・どちらか2単位必修）22-00-11-14

一般秋コース

1年次春：「基礎演習」（創出・選択必修科目）

2年次秋：「演習Ⅰ」（創出・選択必修科目）

2年次春：「演習Ⅱ」（創出・選択必修科目）

3年次秋：「演習Ⅲ」（創出・選択必修科目）

3年次春：「演習Ⅳ」（創出・選択必修科目）

4年次秋：「演習Ⅴ」「卒業課題制作」（創出・どちらか2単位必修）

4年次春：「演習Ⅵ」（創出・選択必修科目）22-00-11-20

グローバル・マネジメント・コース

1年次春：「基礎演習G」（創出・必修科目）

2年次秋：「演習Ⅰ」（創出・必修科目）

2年次春：「演習Ⅱ」（創出・必修科目）

3年次秋：「演習Ⅲ」（創出・必修科目）

3年次春：「演習Ⅳ」（創出・必修科目）

4年次秋：「演習Ⅴ」（創出・必修科目）

4年次春：「演習Ⅵ」（創出・選択科目）22-00-11-25

「基礎演習」を専門演習に位置づけるべきかどうかは判断に迷うが、初期教育に位置づける内容ではないので、この位置づけを選択した。専門学習を進めるための基礎的な知識の修得のために設置されている。「各担当教員の専門分野に関連し、専門的学習へ進む上で必要な基礎的な知識の修得を目的としています。例えば、専門書の読み方、データの集め方、レポートの書き方、レジメを用意してのプレゼンテーションなどについて学習します。」22-00-11-8

1999年度の「基礎演習」担当者は6名、「基礎演習G」担当者は1名。ゼミごとにテーマと評価方法が異なる。22-99-12-184～190 2000年度の「基礎演習」担当者は2名、「基礎演習G」担当者は1名。22-00-12-186～189

「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」は、「各担当教員の専門分野について、2年半又は3年間継続的に、深く専門的に学習することを目的としています。すなわち、各担当教員の専門分野によってそれぞれ特徴があり、また、個別指導に重点を置いているため小人数で行われる授業です。従って、演習については履修者の選抜を実施します。」22-00-11-8 とあるように、同一教員の下で継続し、選抜によりゼミナールが決定する。

演習が2年次と3年次にわたるため、進級と関わる問題も確認事項となっている。「演習Ⅰ」の単位を修得したが3年次に進級できなかった場合、進級後に「演習Ⅱ」を継続することができる。進級できても「演習Ⅰ」の単位が履修できないと、演習の履修資格がなくなる。また、継続すべき演習の単位が途中で修得できなかった場合、その時点で演習の履修資格がなくなる。

「卒業課題制作」は、一般春コースと一般秋コースの学生用に設置されている科

目で、演習を選択しない学生あるいは修得できない学生にとって必修科目となる。  
22-00-11-8~9

2000年度の「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」全科目を開講しているのは21ゼミ。「演習Ⅰ」のみの開講は1ゼミ。「演習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」の開講は2ゼミ。「演習Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ・Ⅴ」の開講は1ゼミ。「演習Ⅳ・Ⅴ」の開講は3ゼミ。合計28ゼミ。「卒業課題制作」は1ゼミ。22-00-12-190~218 各ゼミのテーマをみると、経営情報の分野を中心として、異文化間コミュニケーション、科学的な見方の育成、中国思想と現代社会、構成メンバーと教員でテーマを決めるもの、レジャーやスポーツ現象関係、英語能力の育成、現代社会に適応するための基礎力、問題意識ならびに自己表現能力・コミュニケーション能力の育成という広がりがある。

#### L セメスター制

セメスター制を実施している。すべての科目が半期完結型の科目になっている。「Ⅰ・Ⅱ」に分けて行われる授業は、それぞれ春学期か秋学期に開講されている。一見、4単位科目を2単位科目に分割しただけのように見えるが、必修科目を限定し、「Ⅰ」「Ⅱ」科目の履修条件を除くことによって、相互に独立した科目となり、完全セメスター制を実施しているのと等しい履修の自由が得られている。非常に工夫されている。22-00-11-10~25

#### M 学科カリキュラムの特色

1. 秋学期入学を積極的に位置づけ、カリキュラムにおいても特色を出している。
2. 科目区分がユニークで学部の教育目的を明確に打ち出すものとなっている。
3. 各科目区分に配されている科目群も、教育目的や科目区分に沿うものとなっている。
4. 演習科目の重視と同時に、その代替科目としての「卒業課題制作」の設置が特徴的である。その授業運営について、ここで触れておく。月1回の集合学習に出席し、規定の読書報告を期日内に提出する。この間の各自の積み重ねによって卒業課題を期日内に提出する。基本的には論文形式で作成されたもので、24000字以上のもの。音楽や映像作品、コンピュータ・ソフトなどの制作、企業経営や事業運営なども課題テーマにふくまれており、これらの作品に、作品製作の意図や作成過程のレポート、社会的な意義を記述した論文を添えて提出する。22-00-12-190
5. カリキュラム運営と関わって、「教員の都合による休講」がないことの明記22-00-11-7、1年次から2年次への進級要件の設定、成績優秀者への褒賞制度の実施

22-00-11-34など、カリキュラムへの構成員の真剣な姿勢を促している。

~~~~~

**A 大学番号・大学名**

24 中央大学

**B 学部・学科 (○が対象学科)**

学部名：商学部

学科名：○経営学科 会計学科 商業・貿易学科 金融学科

**C コース名**

**D コース開始年次**

**E 卒業要件単位数**

1999年度カリキュラムまで

136単位。24-99-11-69

2000年度カリキュラムから

124単位。24-00-11-44

**F 進級要件**

**G 履修科目数制限**

1999年度カリキュラムまで

1年次41単位、2年次43単位、3・4年次44単位、計172単位。24-99-11-69

2000年度カリキュラムから

1年次36単位、2年次～4年次各40単位、合計156単位。24-00-11-67

**H カリキュラム区分**

1999年度カリキュラムまで

基礎科目、基本科目、関連科目、外国書講読、専門演習、基礎演習、課題科目、総合講座、外国語科目、保健体育科目からなる。

基本科目は、共通基本科目、管理論系、情報論系からなる。

外国語科目は、第一外国語、第二外国語、選択外国語からなる。

保健体育科目は、講義、実技からなる。24-99-11-69

2000年度カリキュラムから

基礎科目、基本科目、プログラム科目、経済・法律科目、関連科目、総合人間科目、演習科目、外国語科目、健康・スポーツ科目からなる。

基本科目は、共通基本科目、管理論系、情報論系からなる。

外国語科目は、第一外国語、第二外国語、選択外国語からなる。24-00-11-44

## I 必修科目

1999年度カリキュラムまで

- 1年次：基礎科目「経済学」  
 基本科目・共通基本科目「経営学（講義・演習）」  
 外国語科目・第一外国語「英語Ⅰ～Ⅱ」  
 外国語科目・第二外国語  
 保健体育科目「体育実技Ⅰ」
- 2年次：基礎科目「経済原論」  
 基本科目・共通基本科目「経営学原理」  
 外国語科目・第一外国語「英語Ⅲ～Ⅳ」  
 外国語科目・第二外国語  
 保健体育科目「体育実技Ⅱ」（2・3年次）
- 3年次：基本科目・共通基本科目「経営管理論」24-99-11-78、90～91

2000年度カリキュラムから

- 1年次：外国語科目・第一外国語 レギュラー・コース、基礎コース、アドヴァンスト・コースに分かれる。コースによって科目が異なる。  
 外国語科目・第二外国語 レギュラー・コースとインテンシブ・コースに分かれる。コースによって科目が異なる。  
 健康・スポーツ科目 「健康・スポーツⅠ」
- 2年次：基礎科目 「経済原論」  
 基本科目・共通基本科目 「経営学」  
 外国語科目・第一外国語 レギュラー・コース、基礎コース、アドヴァンスト・コースに分かれる。コースによって科目が異なる。  
 外国語科目・第二外国語 レギュラー・コースとインテンシブ・コースに分かれる。コースによって科目が異なる。  
 健康・スポーツ科目 「健康・スポーツⅡ」（2・3・4年次）
- 3年次：基本科目・共通基本科目 「経営管理論」（3・4年次）24-00-11-66～67

## J 初期教育

1999年度カリキュラムまで

1年次：「教養演習」（課題科目・選択必修科目）

1年次～4年次：基礎演習（基礎演習・選択科目）

「教養演習」と基礎演習が対になって、学部教育の導入と専門的基礎力づくりの導入としての役割を果たしている。

「教養演習」は、「人文・自然・社会科学の幅広い分野にわたって設置された特定のテーマについて、討論・発表などをおこない、文献調査やプレゼンテーション、論文作成などの基礎的能力を養います。」24-99-11-74 詳細は教養演習要項に示されている。

基礎演習は科目区分を示す。この科目区分名のもとに、8つの演習が配置されている。24-99-11-92

科目名は、「情報処理演習Ⅰ」「情報処理演習Ⅱ」「簿記演習Ⅰ」「簿記演習Ⅱ」

「計量分析演習Ⅰ」「計量分析演習Ⅱ」「数学演習Ⅰ」「数学演習Ⅱ」

これらの科目は、レポート作成・研究発表に必要な「コンピュータの操作、簿記、数学などのテクニックを養成するためのトレーニング演習」24-99-11-74である。

2000年度カリキュラムから

1年次：「1年次演習」（演習科目・選択科目）24-00-11-67

「1年次演習」は、1999年度カリキュラムの「教養演習」の名称変更科目にあたる。次の「1年次演習」についての説明からわかる。「1年次演習は、人文・自然・社会科学の幅広い分野にわたって設置された特定のテーマについて、討論・発表などをおこない、文献調査やプレゼンテーション、論文作成などの基礎的能力を養います。」24-00-11-50 詳細は1年次演習要項に示されている。

## K 専門演習

1999年度カリキュラムまで

3年次：「演習Ⅰ」（専門演習・選択科目）

4年次：「演習Ⅱ」「演習論文」（専門演習・選択科目）24-99-11-90

「演習Ⅰ」と「演習Ⅱ」は、連続して同一教員が担当し、「演習Ⅰ」は3年次履修科目であり、再履修することはできない。また、3年次に「演習Ⅰ」を履修していないと、4年次に「演習Ⅱ」を履修することはできない。24-99-13-12 履修希望者は、2年次の9月に配布される専門演習の要項を読み、2年次の10月の募集に申し込む。担任教員の選考によって、履修の可否が決定する。24-99-11-74

また、「演習Ⅱ」の登録をすると、自動的に「演習論文」（4単位）も登録される。24-99-13-13

2000年度カリキュラムから

3年次：「演習Ⅰ」（演習科目・選択科目）

4年次：「演習Ⅱ」「演習論文」（演習科目・選択科目）24-00-11-66～67

**L セメスター制**

1999年度カリキュラムまで

セメスター科目、2単位科目、4単位科目が混在している。24-99-11、12、13

2000年度カリキュラムから

「商学部時間割－2000年度入学生適用－」の「履修上の注意事項」にセメスター科目について説明がある。「前期・後期のいずれかの期間で、週2回集中的に開講される講座をセメスター科目という。履修登録時、OMR用紙に各々2箇所マークするので、十分注意すること。」24-00-13(1)-1

1年次配当科目では「簿記論」「会計学総論」の2科目がセメスター科目となっている。

**M 学科カリキュラムの特色**

1. 2つの履修モデルで、ガイドラインが示されている。管理論系科目重視型、情報論系科目重視型。24-99-11-78～79、24-00-11-55～56
2. 2000年度カリキュラムから卒業要件単数を削減し、科目区分も変更している。
  - ①科目区分の変更に伴って、基礎演習区分と専門演習区分がなくなり、これらの区分の中の科目が新たに設けられた演習科目区分に統合され、「1年次演習」（選択科目）が新設された。
  - ②外国書講読区分がなくなり、この区分の科目が関連科目区分に移動した。
  - ③基本科目・関連科目区分の科目のなかから経済・法律科目区分が新たに設定された。
  - ④プログラム科目区分が新設された。この区分は、職業会計人（公認会計士、税理士、国税専門官など）に対応した「アカウント・プログラム」と、ビジネス英語資格に対応した「ビジネス・コミュニケーション・プログラム」に分かれる。24-00-11-26
  - ⑤科目区分や履修モデルとは別に、経営学科カリキュラム概念図が示されており、導入科目、基礎力養成科目、トレーニング科目、教養拡大・判断力養成科目、発展科目、応用科目の区分と流れ図に従って、全科目が配置されており、カリキュラム表とは違った意味で、学科教育の全体像が見渡せるようになっている。24-99-11-18～19、24-00-11-10～11

- ⑥全学共通の語学教育に関して、第一外国語は、レベルにより基礎コース、レギュラー・コース、アドヴァンスト・コースの3コースに区分した。また、第二外国語はインテンシブ・コース、レギュラー・コースに区分した。24-00-11-27
- ⑦フレックス・コース、フレックス・Plus 1・コース
- ⑧カリキュラムや学部教育を支える要素としての「オピニオン・ボックス」の設置。「学生部では、学生から寄せられる意見や提案をひとつひとつ委員会で検討し、関係部署とも連絡をとりながら、適切に対応するとともに、大学運営に反映するよう心がけています。

また、意見や提案を寄せていただいた場合は、本人になるべく早く回答を伝えるようにしています。広く学内に紹介したい意見や提案は、そのつど、大学が学生のために発行している『Hakumon ちゅうおう』に掲載します。建設的な意見、提案が寄せられています。」24-99-1-102



**A 大学番号・大学名**

**26 東海大学**

**B 学部・学科 (○が対象学科)**

学部名：政治経済学部

学科名：政治学科 経済学科 ○経営学科

**C コース名**

**D コース開始年次**

**E 卒業要件単位数**

124単位。26-99-2-9、26-01-3-11

**F 進級要件**

**G 履修科目数制限**

2000年度カリキュラムまで

各セメスターとも必修科目と選択科目を合わせて24単位まで選択できる。26-99-12(2)-3

**H カリキュラム区分**

2000年度カリキュラムまで

A 現代文明論、B 総合教育科目、C 外国語科目、D 体育科目、E (=H) 他学部・他学科科目、F 専門基礎科目、G 専門科目、H (=E) 他学部・他学科科目からなる。26-99-2-9

2001年度カリキュラムから

I 現代文明論科目、II 現代教養科目、III 外国語コミュニケーション科目、IV 主専攻科目、V 自由選択科目・副専攻科目の5区分からなる。26-01-3-11

I 現代文明論科目は、現代文明論と分離融合科目からなる。

II 現代教養科目は、理系科目と体育科目からなる。

III 外国語コミュニケーション科目は、英語コミュニケーション科目と各国語コミュニケーション科目からなる。26-01-3-9

**I 必修科目**

2000年度カリキュラムまで

F 専門基礎科目

「情報処理 I」

G 専門科目

「経営学基礎論」「現代経営」「経営英語 I」「経営学演習 I」「経営学演習 II」  
26-99-2-8

2001年度カリキュラムから

IV 主専攻科目

「経営学基礎論」「経営学方法論」「論文作成演習」「情報処理 I」「経営学演習 I  
A」「経営学演習 I B」「経営学演習 II A」「経営学演習 II B」26-01-3-10

**J 初期教育**

2001年度カリキュラムから

：「経営学方法論」(主専攻科目・必修科目)

：「論文作成演習」(主専攻科目・必修科目)

「この授業では経営学において使用される方法論を学んでいきます。経営学は学際的な分野のため、様々な学問の方法論が用いられます。このため、経営学で用いられる方法論を網羅的に学ぶことがこの授業の目的です。また、授業の効果を上げるため通常の講義科目と異なり、少人数単位のクラスを編成し授業をおこなっています。」26-01-3-14

「論文作成演習ではレポート、論文の書き方を学んでいきます。レポート・論文作成における、約束事、書き方など、今後の授業でレポート、論文を作成する際に役

立つ事柄を学んでいきます。」26-01-3-14

## K 専門演習

### 2000年度カリキュラムまで

第3・4セメスター：「経営学演習Ⅰ」（主専攻科目・必修科目・4単位）

第5・6セメスター：「経営学演習Ⅱ」（主専攻科目・必修科目・4単位）

第7・8セメスター：「経営学総合演習」（主専攻科目・選択科目・4単位）

26-99-2-11

### 2001年度カリキュラムから

：「経営学演習ⅠA」「経営学演習ⅠB」（主専攻科目・必修科目・各2単位）

：「経営学演習ⅡA」「経営学演習ⅡB」（主専攻科目・必修科目・各2単位）

：「経営学演習ⅢA」「経営学演習ⅢB」（主専攻科目・選択科目・各2単位）

26-01-3-10

演習科目は、カリキュラム上、すべて半期完結科目になった。「1セメと2セメで情報処理・現代経営・経営学方法論・論文作成演習を、3セメ以降で経営学演習を少人数編成で学習し、共通基盤を形成することで、きめ細かな教育が受けられます。」26-01-1-29

1999年度カリキュラムでは、ゼミの募集・応募について次のように行われた。「経営学演習Ⅰ・Ⅱおよび経営学総合演習は、第3セメスターから第8セメスターまで6セメスター連続して履修することを原則とする。担当教員の指導のもとで関連科目等を履修していく。経営学総合演習については選択科目であるが、経営学演習Ⅰ・Ⅱで得た成果を卒業論文あるいはレポートとして纏めるためにも継続して履修することが望ましい。第2セメスターで経営学演習の募集がおこなわれる。希望する専攻科目、担当教員を明確にしたうえで、応募することになる。」26-99-12(2)-3

2000年度以降も同様な方法でゼミ生が決まるならば、2セメスターで募集がおこなわれる。原則として、この時決定したゼミで「経営学演習ⅠA」から「経営学演習ⅡB」まで継続する。「経営学演習ⅢA」「経営学演習ⅢB」は、卒業論文指導が中心となり、選択科目となっているが、この科目を履修する場合も、同一ゼミを継続することになる。26-01-3-14～15

## L セメスター制

全学で1997年度からセメスター制を実施している。セメスター制のメリットについて、東海大学では、次のように捉えている。

「1. 学生の科目選択自由度が増す（＝科目選択・履修申告機会）

2. 集中的に単位を修得できる (=少数科目の集中学習)
3. 資格取得や留学も容易になる (=無履修セメスター)
4. 不合格科目のリカバリーが早期にできる (=必修科目の每期開講)」

26-01-1-11

セメスター制は、大学生活を有効に活かす方法として、明確に位置づけられている。学習の効率化や留学という他大学に共通するメリットに加えて、東海大学の場合、学園の3大学(東海大学・九州東海大学・北海道東海大学)の学園内留学にもこの制度が活かせる。26-01-1-11

### M 学科カリキュラムの特色

1. 2000年度までのカリキュラムをベースにして、2001年度から新々カリキュラムを実施している。
2. 主専攻科目を3コースに分けて、学生は特定のコースに所属しない「ゆるやかなコース制」を実施している。

#### 2000年度カリキュラムまで

- \*経営管理コース：経営における管理と戦略の重要性を認識し、経営上の問題発見とその分析能力を養う。
- \*経営情報コース：マルチメディア時代における企業や組織にとって、ヒト・モノ・情報がいかに重要であることを認識し、経営情報戦略上の柔軟な思考力を養う。
- \*国際経営コース：企業や組織のグローバル経営戦略の大切さを知り、分析洞察する力を磨く。26-99-1-19、26-00-1-21

#### 2001年度カリキュラムから

- \*経営者育成コース：21世紀の企業や組織にとって、経営者の果たす役割が益々重大となることを認識し、経営者としての経営上の問題発見とその分析能力を養う。
  - \*経営情報コース：マルチメディア時代における企業や組織にとって、ヒト・モノ・情報がいかに重要であることを認識し、経営情報戦略上の柔軟な思考力を養う。
  - \*国際経営コース：グローバル時代の企業や組織にとって、グローバル経営戦略がいかに重要であることを認識し、グローバルな分析や洞察をする力を養う。26-01-3-4
3. I 現代文明論科目は、全学で共通なカリキュラムのコアとなっている。特に

「現代文明論」を必修科目としている。「文系・理系の専門知識に偏らない教育実践」を意図し、「豊かな人生観、世界観、歴史観を身につけ、現代に不可欠な総合的判断力を発揮できる」26-01-1-10ことを目的として、この科目区分が置かれている。これは建学当初からの東海大学の教育方針を体現したのもであり、この「現代文明論」にリンクする形で文理融合科目や、Ⅱ現代教養科目を位置づけている。また、基礎教育関係の科目だけでなく、広く専門科目にもこの科目区分から学んだことが活かされるように配慮されている。

4. 学生の所属する学科の主専攻以外に、副専攻を持つことができる。つまり他学部・他学科の科目を履修することができ、修得単位は、卒業要件単位数として認定される。と同時に、副専攻として認められる。まとまりのある履修を促進する方法として、よく考えられている。26-01-1-10

「本学では、従来の一般教育と専門教育の垣根を取り払い、他学部・学科の科目の履修を可能とし、自由なカリキュラム編成ができるようにしています。当然、単位数についても、自分が在籍する学部・学科以外の科目を学部・学科が定める単位数まで卒業単位として修得できます。」26-99-1-8

---

以下の資料の書名は、まず、背表紙の書名から採り、背表紙に書名がない場合には、表表紙の書名から特定した。整理番号は、「大学番号－資料に付されている年度－資料番号」となっている。資料番号は、資料の種別によって区別しており、大学案内関係は1、入学試験情報中心の資料は2、学部紹介、授業科目一覧等は3とした。これらが大学の広報活動関係の資料であるのに対して、履修要覧関係は11、シラバス関係は12として区別した。

#### 19 大東文化大学

- 19-00-11：『履修の手引 平成十二年度（二〇〇〇） 大東文化大学経営学部』  
19-00-12：『平成十二年度（二〇〇〇）講義要項 経営学部 大東文化大学』  
19-01-1：『2001 DAITOBUNKA UNIVERSITY GUIDE BOOK』

#### 20 高千穂商科大学

- 20-98-1：『TAKACHIHO UNIVERSITY 1998 高千穂商科大学大学案内』  
20-99-1：『高千穂商科大学 TAKACHIHO UNIVERSITY 1999 大学案内』  
20-99-11：『平成11年度 履修要項 高千穂商科大学』  
20-00-1：『高千穂商科大学 TAKACHIHO UNIVERSITY 2000』

20-00-11：『平成12年度 履修要項 高千穂商科大学』

21 拓殖大学

21-99-1：『1999 Takushoku University Passport 拓殖大学』

21-00-1：『2000 Takushoku University Passport』

21-00-11：『平成12年度 履修要項（商・政経・外国語学部）拓殖大学』

21-00-12：『平成12年度（2000年度） 講義要項－商・政経学部－ 拓殖大学』

21-01-1：『T-engine 2001 Takushoku University』

22 多摩大学

22-99-1：『世界を手に入れるために 多摩大学』

22-99-12：『SYLLABUS 1999 TAMA UNIVERSITY』

22-00-11：『学生生活ハンドブック 2000 TAMA UNIVERSITY』

22-00-12：『SYLLABUS 2000 TAMA UNIVERSITY』

24 中央大学

24-99-1：『CHUO UNIVERSITY 1999 INFORMATION 中央大学』

24-99-11：『FACULTY OF COMMERCE CHUO UNIVERSITY  
1999 中央大学 商学部 履修要項』

24-99-13：『1999年度 商学部時間割 一部 』

24-00-11：『FACULTY OF COMMERCE CHUO UNIVERSITY  
2000 中央大学 商学部 履修要項』

24-00-13(1)：「2000年度 商学部時間割 -2000年度入学者適用-」

26 東海大学

26-99-1：『1999 進学ガイド PERFECT 東海大学』

26-99-2：『1999 東海大学 政治経済学部 経営学科』

26-99-12(2)：『授業要覧 1999 経営学科』

26-01-1：『2001 進学ガイド PERFECT 東海大学』

26-01-3：『政治経済学部 経営学科 2001 東海大学』